

平成17年度病害虫発生 予報第12号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成18年3月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

< 予想される向こう1か月の天候 >

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低く、2週目は高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素	要素別確率		
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病 さび病	並 並	並 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	並(前年比) 並 少 並	並(前年比) 並 少 並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや多 やや多 並 やや少 並 並	並 やや多 やや多 並 やや少 並 並
たまねぎ	白色疫病 ポトリチス葉枯症 ネギアザミウマ	やや少 少 並	やや少 少 並
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 少 並	やや少 並 少 並
かんきつ	そうか病	やや少 (越冬病斑)	並

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
か ん き つ	かいよう病（注意報第8号）	多	多
	ミカンハダニ	（越冬病斑） 少	少
茶	カンザワハダニ	やや少	やや少

【麦 類】 ( )内は平年値 [以下同じ]

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（大麦・裸麦：発生を認めない、小麦：発生茎率0.01%）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. さび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆）の結果、発病は認められなかった（発生を認めない）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

【トマト】

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並（前年比）

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は0.9%（前年0.5%）、発生圃場率は25.0%（前年33.3%）であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病果率は0.1%（0.3%）、発生圃場率は16.7%（27.1%）であった。

3. 葉かび病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病は認められなかった（発病株率

1.6%、発生圃場率24.1%)。

#### 4. コナジラミ類 (外コナジラミ、シバ-リコナジラミ、オシコナジラミ)

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.8%)、発生圃場率は16.7%(13.6%)であった。

### 【きゅうり】

#### 1. ペと病

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は5.6%(6.3%)、発生圃場率66.7%(44.5%)であった。

#### 2. うどんこ病

##### (1) 予報内容

発生程度 やや多

##### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は10.8%(5.1%)、発生圃場率は66.7%(45.1%)であった。

##### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 3. 褐斑病

##### (1) 予報内容

発生程度 やや多

##### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.2%(1.8%)、発生圃場率は66.7%(20.8%)であった。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 高温多湿で発生が多くなるので、ハウス内の換気を十分に行い湿度を下げる。

イ 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、早期防除に努める。

ウ 薬剤散布は葉裏まで十分薬液がかかるようにし、系統が異なる薬剤をローテーション散布する(薬剤は県防除基準参照)。

エ 今年、多発した圃場は、次作も発生しやすいので、収穫終了後の作物残さはハウス内に放置しない。

#### 4. 菌核病

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(8.1%)であった。

#### 5. 灰色かび病

##### (1) 予報内容

発生程度 やや少

##### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病は認められなかった(発病果率

0.5%、発生圃場率21.4%)。

#### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率2.0%(2.3%)、発生圃場率33.3%(33.4%)であった。

#### 7. コナジラミ類(シハ-リ-フコジラミ、オシツコジラミ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.4%(1.5%)、発生圃場率は33.3%(23.2%)であった。

### 【たまねぎ】

#### 1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率0.2%、発生圃場率3.8%)。

#### 2. ポトリチス葉枯症

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病は認められなかった(発病株率1.2%、発生圃場率12.3%)。

#### 3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は20.3%(23.8%)、発生圃場率は80.0%(71.9%)であった。

### 【いちご】

#### 1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率0.0%(0.4%)、発病果は認められなかった(発病果率0.1%)。発生圃場率は3.7%(8.5%)であった。

#### 2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は22.2%(20.2%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生は認められなかった(寄生株率1.6%、発生圃場率14.5%)。

4. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.4%(5.3%)、発生圃場率は33.3%(33.4%)であった(図)。

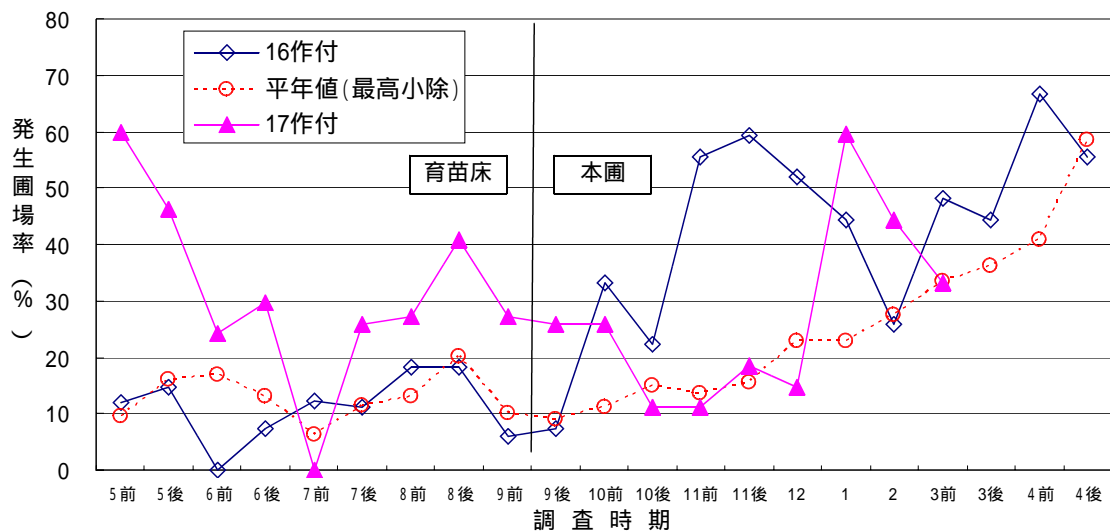


図 ハダニ類発生圃場率の推移(巡回調査)

【かんきつ】

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、越冬病葉は認められなかった(越冬病葉率 0.0%)。

イ 向こう1か月間の気温は平年並か高く、降雨量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. かいよう病

平成18年3月15日付け、病害虫発生 注意報第8号による。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（39筆）の結果、寄生葉率は0.2%（3.1%）、発生圃場率は12.8%（31.0%）であった。

【茶】

カンザワハダニ

（1）予報内容

発生程度 やや少

（2）予報の根拠

3月上旬の巡回調査（16筆）の結果、寄生葉率は0.3%（0.9%）、発生圃場率は18.8%（22.3%）であった。